広島大学附属福山中・高等学校
中等教育研究紀要　第33巻

映画を利用した英語の授業

――楽しい Listening Training をめざして――

多賀　徹哉

英語学習者にとって、もっとも習得に苦労するのが「聞き取る力」である。中学校段階では、「聞く力」が授業の中で自然についていくような取り組みが工夫されている。しかし、高等学校ではなかなか手が回らないのが実情である。そこで、楽しみながら聞く力をつけていく授業を工夫してみた。最終的に「ひとつの映画が、字幕なしでもある程度聞き取れた」という自信をつけてやりたいというのがこの取り組みの願いであった。

なお、本稿は1991年度全附連高校部研究大会及び、1991年度広島県高等学校教育研究会視聴覚部会での発表をもとにしている。

★はじめに

【教室から　1】――《4 skills の観点から》

中学校１年生で初めて英語を学ぶ生徒たちに、授業ではどのように迫っていくだろうか。私自身のことを考えてみても、まず、音声から入っていく。授業の主要部分を Oral Drill 中心に構成し、その活動を実行するためにはモデルとなる音声を十分に聞かせなければならない。

中学校の授業の場合、Oral introduction または oral interaction をはじめ、Choral Reading、Pattern Practice、Tape Listning、Q and A などできるだけ英語を聞き、話す活動を授業の中心に据えて構成するのが一般的ではなかろうか。

それでは、高等学校の場合はどうであろうか。学習すべき内容が飛躍的に増えてくる。語彙、文法事項の多さに加え、一文の長さは長くなり、レッスンの分量も格段に増える。更に、英文そのものも難解になってくる。したがって、これらの内容を能率よくこなそうとしても音声面での諸活動まで加える余裕はない。（ただし、これは私自身のことを振り返って述べている。）

生徒たちは、せっかく中学校で訓練を重ねてきた聞く姿勢、話す姿勢（というよりも身につけつつあった聞き取る力、話す力）を失ってしまう。それどころか、そういった方面に対する関心すらも薄れ、文法、訳読、単語といったことが英語学習のすべてであるかのような錯覚に陥ってしまっている。

結局、学校教育を離れ、必要に迫られ、あるいはからくも失わなかった語学への憧れから、語学学習を再開するにあたって、学校時代の英語教育は一体なんだったのだろうと恨みつらみを叫ばざるをえなくなっていくのではなかろうか。特に、英語を聞き取ることは我々がもっとも苦手としているものであり、いくらかでも（神経の）柔軟性が残っている10代の時期を無駄に過ごすことは大きな損失といえる。

【教室から　2】――《Listening を考える》

語学習得においては、言うまでもなく、４つの領域（Listening、Speaking、Reading、Writing）が総合的に訓練されなくてはならない。その中でも聞く力の養成は特に重視すべきものではなかろ

うか。

生徒たちの様子を見ていると、教科書準拠のテープですら聞き取ることに苦労しているようである。最近では衛星放送が普及しつつあり海外のニュースがリアルタイムに我々のもとに届くようになった。そして、映画も二か国語放送されるようになっている。また、日常生活のあらゆる場面に英語が氾濫し、多くのコマーシャルの中で英語を耳にする。ところが実際には、英語で聞き取って理解することを放棄し、字幕、日本語の解説を頼りにするか、コマーシャルに至っては英語はＢＧＭくらいにしか意識していない。この現象は生徒たちにだけ当てはまるものではない。学校における英語学習だけでは、語学学習に限界があるわけであるが、聞く力の養成には漠大の時間と訓練と努力が必要である。それだけに何とか楽しみながらトレーニグができないものだろうか。学校における英語学習の成果として、「映画のひとつでも字幕なしでだいたい何をいっているのか理解できた、」と言うような体験をさせてやることはできないであろうか。

★試み・その１

【ねらい】

今年度（1991年度）、年間を通して取り組んでいる「映画を利用した Listening Training」の試みでは次のようなねらいを設定した。

①生徒に『字幕なしでも内容が分かった』という喜びを体験させる。

②日頃の学習（語彙、文法など）を実際の英語と直結させる。

③生徒に英語の音声面への関心を持たせる。

④身の回りに何気なく流れている英語に注意を向けさせる。

これらのねらいの中で①をもっとも重視して実践しているつもりである。

【実践方法】

１）対象学年　第４学年（高１）５クラス

２）実践回数　ほぼ２週間に１回（50分）

３）教材　“Back to the Future”（ＴＶ二か国語放送を録画したもの）
スクリーンプレイ“Back to the Future”

【授業内容】

［１］Warming Up

テレビのＣＭなどから取材した英語を聞かせ、ディクテーションまたは「何のＣＭか」といった質問に答えさせる。

［２］ビデオ視聴

映画の学習範囲（約５分間分）を視聴させる。

［３］Listening（１）

学習範囲のセリフ部分を抜き出してまとめたテープを聞かせる。少し説明やヒントを与えながら内容についての質問に解答させる。

(⇨直後に答え合わせ)

［4］内容理解

スクリプトを参考にさせて日本語訳プリントの空白部分を補充させる。

(⇨データーヴィユーアーで訳例提示)

［5］Listening （2）

日本語訳プリントを見させながらセリフテープを聞かせる。

［6］Listening （3）

スクリプトの英文を見させながらセリフテープを聞かせる。

［7］Listening （4）

日本語訳プリントを見させながらセリフテープを聞かせる。（2回目）

［8］ビデオ視聴

再度ビデオを視聴させる。

【補足】

［1］の Warming Up については身の回りに流れている英語がどのくらい聞き取れるかの力試しであり、また、英語が聞こえてきたら聞き取って見ようとする姿勢をつけさせるためのものある。

理想的には Oral による模倣練習によって一層力をつけていけると考えているが、映画のセリフは学習者には早すぎる様である。したがって、今回の取組には聞き取りのみに重点を置いた。

なお、第二学期からはビデオキャプションシステムを導入した工夫を加えて実施した。

★試み・その2　［ビデオキャプションシステムを利用した英語授業の試み］

第一学期の半ばにＬＬ教室にビデオキャプションの装置が設置された。そこで、広島県高等学校教育研究会視聴覚部会での公開授業研究を機に、このキャプションシステムを英語の授業に取り入れた取り組みを実施した。

【ビデオキャプションの利点と利用】

キャプション（英字字幕）によって画面上で発せられている英語を文字で確認できる。したがって画面と同時に英語（意味、リズム、イントネーション、発音の特徴など）をつかむことが可能となる。また、テキストを見ずに、画面を見ながら発音練習も可能であるので、比較的発話のスピードの遅い教材であれば登場人物と同時に発話練習ができる。ビデオの音声を抜けば、生徒自身が登場人物になり代わってセリフを言うことになり、さながら声優、あるいは登場人物の気分が味わえる。こうしたトレーニングによってよりリアルな聞き取り、発話の力をつけていけるのではないだろうか。なお、個人的意見であるが、聞き取りのトレーニングには口頭での練習が欠かせないと思う。

なぜなら、実際の英語における音の変化や音の連続を自ら試してみることが、聞き取る際にも役立つと思うからである。

以上　簡単な説明に終わったがキャプションの利点とその利用には、次のようなことがあげられる。

①発話された英語を文字で確認できる。⇨聞き取り、ディクテーション

②画面と同時に英語の意味を確認できる。

③画面と同時に英語の発音上の特徴を確認できる。

④発話練習のモデルにすることができる。⇨口頭練習

⑤登場人物に代わってセリフを言うことができる。

【教材】

本年度（1991年度）第4学年を対象に行っている映画を使った授業では、"Back to the Future"を利用している。しかし、キャプションを利用して上の①～⑤を実行するためには発話スピードの遅いものが適切である。その点から、また、話題性、ストーリーのおもしろさなどから、E．T．が適切ではないかと考え、今回の研究授業で利用することにした。

以下、公開授業研究で発表したものを紹介する。

TEACHING PLAN

Ⅰ．Date ：October 29, 1991（1991年10月29日）

Ⅱ．Instructor ：Tetsuya Taga （多賀徹哉）

Ⅲ．Class ：4th year　Class C　第4学年（高1）C組（45名）

Ⅳ．Material ：E．T．（Directed by Steven Spielberg、Universal、1982 1988 MCA Home Video with caption）

Ⅴ．Aims ：映画を通して実際の英語を聞き取る力を養う。
登場人物に代わりセリフを発話することにより、たのしみながら音声上の特徴を学び取り、同時に英語の表現方法を知る。また、口頭練習によって聞き取る力を強化する。

Ⅵ．Procedure ：

	活　動　内　容	備　考
1．Warming Up	Dictation	
2．Review	前時の内容について発話練習	キャプション on
	前前時の場面についてセリフにチャレンジ	
3．Today's Lesson	本時の場面について内容把握に関する質問に答える。	
	解答	
	ディクテーション	
	解答・解説	キャプション on
	ビデオ視聴	（日本語版）
	ビデオ視聴	キャプション on
	ビデオ視聴	キャプション off
	ビデオ視聴	キャプション on

	活　動　内　容	備　考
	発話練習（×３）	テープ
	発話練習（２分間）	pair work
	発話練習（２分間）	キャプション on
	発話練習（×３）	キャプション off
	発話練習	
４．Consolidation		

【おわりに】

ビデオキャプションシステムを利用する教材（主に映画）は教室での授業のために作成されたものではない。したがって、実際に登場人物が発話したものと、キャプションが一致しないこともある。

しかし、セリフ通りのキャプションのついている場面を利用すれば、多くの人の英語を英文で言葉を確認しながら聞き取ったり、あるいは、登場人物とともに発音したりすることが可能である。

英語授業の有力な見方を得たと思う。今後も、このシステムを活用した授業を開発していきたいと考えている。

★アンケートから

１学期の終わりに対象の全クラスの生徒にアンケートに答えてもらった。

（注：このアンケートはキャプションを利用したものではなく、一学期の実践に対してのものである）

以下に、アンケートの結果と考察を示し、今後の授業の改善の手がかりとしたい。

なお、記述解答については省略する。

英語アンケート　　英語科　多賀　　July, 1991　　（対象人数231）

次の質問にお答え下さい。ご協力をお願いします。裏にもあります。

Listening の授業の初めにＣＭなどの英語をいくつか聞きました。

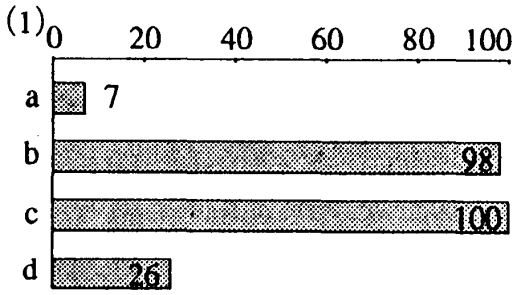
（１）聞き取れましたか。

ａ．ほとんど聞き取れた。

ｂ．だいたい聞き取れた。

ｃ．聞き取れないことが多かった。

ｄ．ほとんど聞き取れなかった。



〈考察〉

大半の生徒が聞き取りやすいと感じると予想していたが、意外にも半々の結果となった。

できたと答えた生徒もできなかったと答えた生徒も、難しいと感じたものよりも、テープの音声に

対して苦情を寄せたものが多かった。また、おもしろいと感じた生徒（好意的な感想を回答してくれた生徒も含む）が約30名いた。

雑音などによる聞き取りにくさが集中力をそいだのではなかろうか。

（2）何か感想があれば書いて下さい。

Back to the future では初めにテープを聞きながら質問を解いてもらいました。

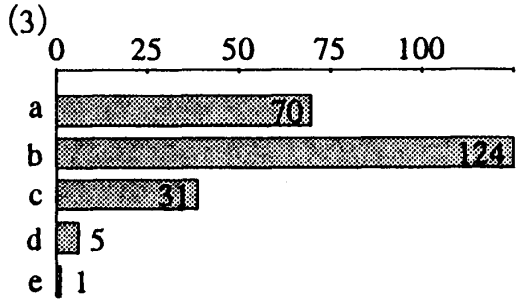
（3）テープは聞きやすかったですか。

a．早すぎて聞き取れなかった。

b．所々聞き取れた。

c．だいたい理解できた。

d．ほとんど聞き取れた。



〈考察〉

実際の英語のスピードは授業で使うテープをはるかに上回るものであり、生徒はこのギャップに当惑しているものと考えられる。ここで挫折させるのではなく、この取組を通して『わかるぞ』という喜びと『もっとがんばろう』というファイトを引き出したいと願っている。

（4）質問の答は正解でしたか。

a．聞き取った範囲で答えたがだいたい正解。

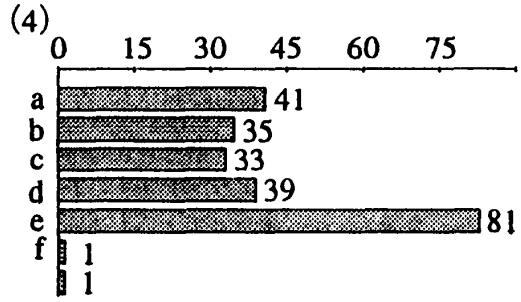
b．聞き取った範囲で答えたが間違いが多かった。

c．カンと度胸でだいたい正解。

d．カンも役に立たなかった。

e．内容を知っているのでだいたい正解。

f．その他（　　）



〈考察〉

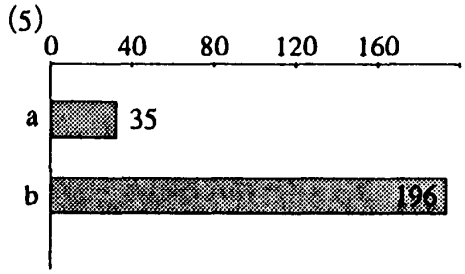
この映画をすでに見ている生徒も多く、そのため内容はほぼ知っている様である。

しかし、内容を知らない生徒にとっては聞き取りに頼る意外に道はなく、かなり困難を強いられた様である。（※１学期の初め頃はセリフテープの聞き取りから始めていた。）

（5）授業の前にテキストをみて内容を把握していましたか。

a．はい

b．いいえ



〈考察〉

特に予習の指示を出さなかった。また、実施が不定期だったため、予習する気分にさせられなかった。

ビデオを見る前にＬＬで内容を大まかにまとめ、テープを聞きました。

（６）何を言っているのか理解できましたか。

ａ．英語も内容も半分以上理解できた。

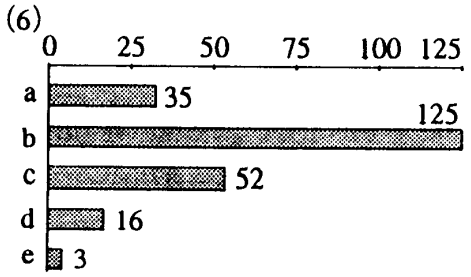
ｂ．英語も内容もある程度理解できた。

（教室で初めてテープを聞いたときよりは進歩した）

ｃ．英語が聞き取れない。

ｄ．全然何が何やら分からない。

ｅ．その他（　　）



〈考察〉

（４）との比較で明らかな様に、日本語訳をまとめさせたり、スクリプトを見せながらセリフテープを聞かせたことにより、分かる様に感じた生徒が増えている。

（７）ビデオを見ました。

ａ．英語も内容もずいぶん理解できた。（８割以上）

ｂ．英語も内容もかなり理解できた。

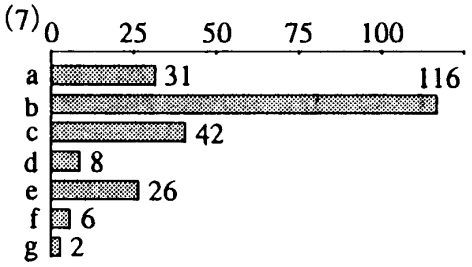
（ＬＬでのテープの聞き取りより進歩した）

ｃ．英語が聞き取れない。

ｄ．全然何が何やら分からない。

ｅ．字幕が欲しい。

ｆ．その他（　　）



〈考察〉

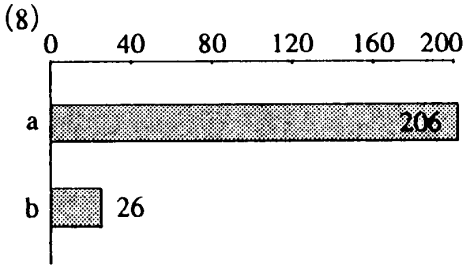
さらに映像を見ることによって理解度が増している生徒が（６）とほぼ同数である。

また、全然わからない生徒が減っている。ただし、字幕が恋しいものも10％強である。

（８）ビデオを元にしたこのような授業をどう思いますか。

ａ．おもしろい、または賛成である。

ｂ．おもしろくない、または反対である。



〈考察〉

この映画を利用した授業に賛成するものが圧倒的に多かった。この結果だけでは結論付けはできないが、工夫次第で生徒は楽しみながら聞く力をつけていけるのではないかと思う。

ただし、賛成者の意識（９）や反対者の意見（12）をよく吟味し、より効果的な方法を考えていく必要がある。反対者は11.3％いるがこの生徒たちの意見は特に尊重し、次の取組に活かしていきたい。

（8）でａの人のみ。

（9）なぜですか。

ａ．ビデオが見られる。

ｂ．ＬＬは夏場は魅力的でありこの授業ではＬＬに入れる可能性が高い

ｃ．普通の授業と変わっているから。

ｄ．教科書にはない表現が出てきて楽しい。

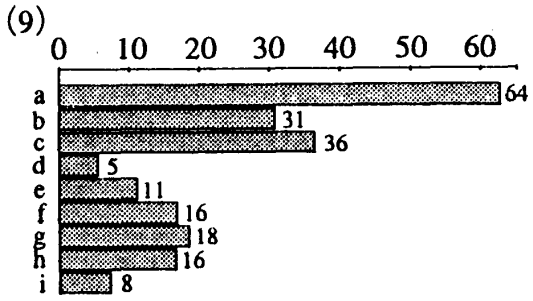
ｅ．Ｍ．Ｊ．フォックスが好き。♥

ｆ．この映画が好き。

ｇ．生の英語に近いものに触れられる。

ｈ．英語学習と言うよりは息ぬきになる。

ｉ．その他（　　）



〈考察〉

結果からわかるように避暑（クーラー有り）、リラックスの時間と考えている生徒が圧倒的で、英語の総合的な力の養成のための授業という意識は薄い。

(10) 何か感想があれば書いて下さい。

(11) 何か要望があれば書いて下さい。

（8）でｂの人のみ

(12) なぜですか。

ａ．私は忙しい。

ｂ．英語の学習に役に立たない。

ｃ．普通の授業がいい。

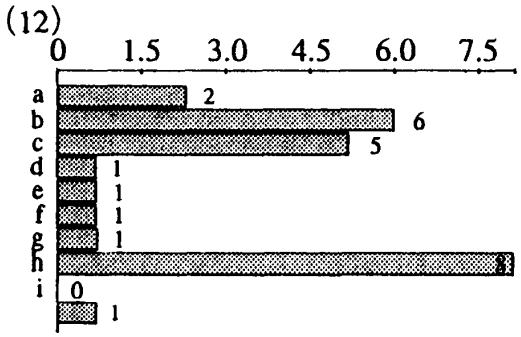
ｄ．教科書のように体系的に勉強できない。

ｅ．Ｍ．Ｊ．フォックスが嫌い。

ｆ．この映画が嫌い。

ｇ．英語の学習で聞き取りやビデオを見ることには関心がない。

ｈ．その他（　　）



(13) 何か感想があれば書いて下さい。

〈考察〉

この授業への批判は『くだらない』、『教師の独りよがり』といった厳しいものがあった。おそらくは授業の目的を十分に理解させずにスタートしたことや、この取り組みに対する興味を持たせないままになってしまったことが、この回答の一因と考えられる。

また、このような回答を寄せた生徒たちにとっては、むしろ、文法をきちんと押さえていく授業

のほうが安心であり、有効であるという意識が強いようだ。生徒の大事な時間を取って実行しているものであるから、どの生徒にも力をつけてやれる授業を工夫したいと切に願うものである。

(14) 何か要望があれば書いて下さい。

(15) あなたはこの授業を通して、英語の学習に対して何か考えることがありましたか。あるいは何か考えが変わりましたか。そういうことがあれば、教えて下さい。

(16) 今どんな勉強をしていますか。具体的に教えて下さい。（Ｚ会とか塾とか)

★反省と課題

まず、注意しておかねばならないことは、今回は何となく『こんなことを言っているな』とわかればいい、ことを生徒の目標にしておいた。したがって、正確に音を捕らえられるかといったところまでは極めていない。そのため、内容が分かってもそれが聞く力と直接結びつけられるとは言い難い。しかし、ねらいのところで述べた様に少しでも『わかるぞ』という体験をさせることによって聞き取りに対する親しみや、やる気を起こさせることができれば将来に希望がもてると思う。

他の問題点としては、たとえば文法事項が体系的に出てくるわけではないので、整理しにくい。

逆の利用もできようが、それには膨大なビデオを見、学習目標となった表現を捜し出す大変な作業がいるうえ、いろいろなビデオを断片的にしか見ることができないだろう。

（ここでいう逆の利用とは、文法を体系的に学んだうえで、その文法事項が実際にどんな場面で使われているかを確認するためのビデオ視聴をいう。）

さらに工夫を重ねていきたい。

［資料］授業時な使ったHandoutの例　上：Back to the Future

下：E.T.

〔Back to the future 1〕DATE ___ CLASS ___ NO. ___ NAME _____

(1) Dictation.

(2) What time did Doc want to see Marty? _____

(3) How long had Doc been out of his house? _____

(4) What time was it? _____

(5) Phrase or useful expression

〔Back to the Future〕イメージノート　1

☆次の空欄を埋めて各場面の会話の内容を大まかにつかみましょう。

M＝マーティー　D＝ドク　J＝ジェニファー　P＝パパ　m＝ママ　L＝リンダ
d＝デイブ　B＝ビフ　S＝ストリックランド

（パート1）

M：ドク、いるの。　アインシュタイン。（　　）

（電話）

D：マーティー、お前か。（　　）で会えるか。
　（　　）をした。手伝ってくれ。

M：一週間どこにいたの。（　　）。

D：それで思い出した。（　　）。アンプがオーバーロードする可能性がある。

M：（　　）。

M：ああ。8時だよ。

D：完璧だ。正確に（　　）。

M：ちょっと待って。てことは（　　）。
　大変だ。（　　）。

（パート2）

J：こっちはだめよ。ストリックランド先生が捜してるわ。（　　）でしょ。

M：僕のせいじゃないよ。ドクが（　　）。

S：君はブラウン博士と（　　）。彼は危険人物だ。忠告しとこう。
　（　　）。

M：はいはい。注意しときますよ。

S：態度悪いぞ。お前を見ると（　　）。

S：おまえのバンドもダンスパーティーの（　　）。
　望みはないぞ。ヒルバレーの歴史で（　　）。

M：歴史が変わるってこともあるさ。

：次。

：1、2、3、

：やめろ。やめろ。（　　）。次だ。次。

J：マーティー、あなた（　　）。
　このオーディションテープも（　　）。（　　）べきよ。

M：でも、（　　）と思うと。とうさんに似てきたみたいだ。

M：4WDだ。いつかは（　　）。

J：御母様は御存じなの。

M：（　　）と思っているよ。もし、二人でなんて知ったら、
　（　　）。かあさんが若い頃はそんなことは決してしなかったってさ。

：時計台を守りましょう。ウイルソン市長は（　　）。
　あの時計台は（　　）。
　ヒルバレー保護協会では、保存を主張しています。

M：はい。寄付するよ。

：ありがと。（　　）を忘れないで。

M：ええっと、（　　）。

J：パパよ。（　　）。

M：（　　）。

J：（　　）にいるわ。電話番号書いとくわ。

〔E.T.〕October 29、1991　Class C No.　　NAME _____

(PART 1)

E．T．は仲間に連絡を取るため通信機を作ります。丁度ハロウィーンの日でエリオットたちはガーティーが変装をしているように見せかけてE．Tを外に連れ出します。通信機を森に設置するためです。

（次の問に答えなさい。）

1）エリオット達の計画ではガーティーは
　①cowgirlになる。
　②ghost
　③cat
　④spaceman

2）しかし、ガーティーは
　①cowgirlのかっこうをしており、そのかっこうになる
　②ghost　つもりにみせかけているのだと言う。
　③cat
　④spaceman

3）計画によるとガーティーはエリオットたちと
　①outlook　で落ち合うことに
　②lookout　なっている。
　③school
　④park

4）ママは帰宅時間について何と言っていますか。

(PART 2)

(DICTATION)

ELLIOT　：_____

GERTY：I'm only pretending I'mgoing as a cowgirl.

ELLIOT　：OK,now,_____

GERTY　：Meet you at the lookout. At the lookout. I'm not stupid,you know!

MICHAEL：

MOM　：

MICHAEL：But all the guys are!

GERTY　：I'm not stupid,you know!

(PART 3)

（今日のフレーズ）

Give me a break. _____

know ～ by heart _____

ex. learn ～ by heart